

科目コード N-211	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	健康状態別看護1:慢性期看護学	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団認定看護師	開講時期	2年前期
授業概要			
慢性期看護の対象となる人とその家族の特徴について理解を深める。慢性期看護の基本となる機能や役割理論について学ぶ。慢性期看護の一般的な展開として健康学習支援を中心とした看護の展開、および急性増悪の予防と精神的支援、代表的な疾患の慢性期にある看護、アセスメントから看護介入について学習する。			
到達目標			
1. 慢性期における身体的・心理社会的側面の特徴を説明する。 2. 慢性期で用いられる理論に関する基礎概念を理解する。 3. 慢性期にある人の看護アセスメントの視点を生活と関連させながら説明できる。 4. 内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、血液疾患患者の看護を理解する。 5. がん看護、主な治療が説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	慢性病との共存を支える看護1	講義	教室2
第2回	慢性病との共存を支える看護2	講義	教室2
第3回	内分泌・代謝機能に障害のある患者の看護1	講義	教室2
第4回	内分泌・代謝機能に障害のある患者の看護2	講義	教室2
第5回	内分泌・代謝機能に障害のある患者の看護3 SMBG	演習	基礎看護学実習室
第6回	アレルギー・膠原病患者の看護1	講義	教室2
第7回	アレルギー・膠原病患者の看護2	講義	教室2
第8回	がん患者の看護	講義	教室2
第9回	がんの治療に対する看護 薬物療法(化学療法)を受ける患者の看護	講義	教室2
第10回	がんの治療に対する看護 薬物療法(化学療法)を受ける患者の看護	講義	教室2
第11回	がんの治療に対する看護 放射線療法を受ける患者の看護	講義	教室2
第12回	血液疾患患者の看護1	講義	教室2
第13回	血液疾患患者の看護2	講義	教室2
第14回	化学療法を受ける患者の観察	演習	成人看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
臨床推論につながるよう、専門基礎分野の学習内容を復習して受講してください。			
成績評価方法	配点 教員50点 内分泌・代謝機能に障害のある患者の看護30点 がんの治療に対する看護20点 授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト	医学書院)臨床看護総論、成人看護学総論、がん看護、成人看護学4(血液造血器) 成人看護学6(内分泌・代謝)、成人看護学11(アレルギー 膠原病 感染症)		
参考書 受講要件 ・備考			

科目コード N-212	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	健康状態別看護2:緩和ケア	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団認定看護師	開講時期	2年後期
授業概要			
緩和ケアの歴史と発展、緩和ケアのチームアプローチについて学習する。全人的苦痛を緩和する緩和ケアの考え方、具体的な症状緩和、スピリチュアルな苦痛のケアについて学ぶ。退院支援の意義、目的、実際と在宅での看取りと看護の役割、臨死期の看護について学習する。			
到達目標			
1. 緩和ケアにおけるチームアプローチが説明できる。 2. 緩和ケアにおける倫理的課題を考える。 3. 全人的ケアについて説明できる。 4. 緩和ケアの広がりを理解し、課題について考えることができる。 5. 終末期の看護、臨死期のケアが説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	緩和ケアの現状と展望・チームアプローチ	講義	教室2
第2回	緩和ケアにおけるコミュニケーション・倫理的課題	講義	教室2
第3回	全人的ケアの実践	講義	教室2
第4回	全人的ケアの実践	講義	教室2
第5回	緩和ケアの広がり: ライフサイクルにおける広がり: 小児 AYA世代	講義	教室2
第6回	緩和ケアの広がり: ライフサイクルにおける広がり: 高齢者	講義	教室2
第7回	緩和ケアの広がり: さまざまな疾患における広がり: 悪性腫瘍	講義	教室2
第8回	緩和ケアの広がり: さまざまな疾患における広がり: 非がん疾患	講義	教室2
第9回	臨死期のケア	講義	教室2
第10回	家族のケア	講義	教室2
第11回	看取りの対応	講義	教室2
第12回	死後のケア	講義	教室2
第13回	看取りの対応	演習	基礎看護学実習室
第14回	死後のケア	演習	基礎看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
臨床推論につながるよう、専門基礎分野の学習内容を復習して受講してください。			
成績評価方法	配点 教員40点 看護師60点 授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト	医学書院)緩和ケア		
参考書			
受講要件・備考			

科目コード N-213	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	健康状態別看護3:周術期看護学	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団認定看護師、看護師	開講時期	2年前期・後期
授業概要			
周術期の経過を知り、予測性をもって看護援助が行えるよう、手術による身体侵襲、回復を促進する看護実践を学ぶ。手術部位による術前後の管理の特徴や、事例に対するアセスメント、援助計画の立案、援助計画に基づく実践とその振り返りを通して、臨地実習で看護実践を行うための基盤となる知識・技術を学習する。			
到達目標			
1. 手術による生体反応からの回復を支える看護援助について説明できる。 2. 手術前日・当日・手術中・手術後の対象者の看護援助について説明できる。 3. 手術部位による手術療法の看護の特徴が説明できる。 4. 事例に対するアセスメント、援助計画の立案・実践・評価ができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	急性期看護	講義	教室2
第2回	外科医療の基礎、周術期看護の概論	講義	教室2
第3回	手術前患者の看護	講義	教室2
第4回	手術中患者の看護	講義	教室2
第5回	手術中患者の看護	講義	教室2
第6回	手術後患者の看護(ドレーン管理、輸液管理、輸血を含む)	講義	教室2
第7回	集中治療を受ける患者の看護	講義	教室2
第8回	手術を受ける高齢者の看護・手術を受ける小児の看護	講義	教室2
第9回	外科各論:肺・胸部疾患患者の看護	講義	教室2
第10回	外科各論:心臓・脈管系疾患患者の看護	講義	教室2
第11回	外科各論:消化器および腹部疾患患者の看護	講義	教室2
第12回	外科各論:脳・神経疾患患者の看護	講義	教室2
第13回	術直後の観察	演習	基礎看護学実習室
第14回	術後1日目の観察	演習	基礎看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
臨床推論につながるよう、専門基礎分野の学習内容を復習して授業に臨んでください。			
成績評価方法	配点 看護師50点 教員50点 授業参加状況、学習課題、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 eナーストレーナー、ビジュラン		
受講要件 ・備考			

科目コード N-214	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	精神看護学概論	時間数	15時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年後期
授業概要			
心のメカニズムや人々が社会の中でよりよく生きるための心のありようをめぐる基本的事項を学ぶ。精神医療の現状・精神保健・精神看護のニーズ、人を理解するために必要な理論について学習する。心の健康保持・増進及び予防・疾病の回復に向けた精神看護の機能と役割を学習する。			
到達目標			
1. 精神の健康のとらえ方と3側面について理解する。 2. 精神の健康に影響する要因(成長発達・人間関係・適応・危機)を理解する。 3. 精神看護の対象と目的を理解する。 4. 精神看護の役割と機能を理解する。 5. 精神の健康の現状と精神の健康の維持増進について理解する。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回		授業方法	場所
第1回	精神看護学で学ぶこと	講義	教室1
第2回	精神保健の考え方	講義	教室1
第3回	心のはたらきと人格の形成	講義	教室1
第4回	心のはたらきと人格の形成	講義	教室1
第5回	関係のなかの人間	講義	教室1
第6回	関係のなかの人間	講義	教室1
第7回	精神科疾患のあらわれ方	講義	教室1
第8回	単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
精神看護学は人間理解に基づいた看護の分野です。心の健康はすべての人に深くかかわります。興味をもって自分や周りの人の心の健康の保持・増進していけるように主体的に学びましょう。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)精神看護の基礎		
受講要件 ・備考			

科目コード N-215	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	精神看護実践論1:社会の精神保健と心の健康	時間数	15時間
担当教員	専任教員	開講時期	2年前期
授業概要			
ライフサイクルや現代社会の精神の健康課題を理解し、現代社会で起こりやすい心の危機状況を知り、精神の健康を保持増進できることを目的として学習する。			
到達目標			
1. 現代社会における心の健康、主要な健康課題および援助方法を説明できる。 2. 医療現場における心の健康と援助方法を具体的に述べるができる。 3. 精神を病む人の特徴と看護の基本について説明することができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	人々の暮らしと精神保健福祉	講義	教室2
第2回	精神保健福祉の歴史	講義	教室2
第3回	社会のなかの精神障害	講義	教室2
第4回	精神保健福祉に関する法律と施策	講義	教室2
第5回	こころの健康の保持増進	講義	教室2
第6回	特定の状況に対する精神保健福祉	講義	教室2
第7回	地域におけるケアと支援(学校・地域)	講義	教室2
第8回	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	講義	教室2
	災害時のメンタルヘルスと看護	講義	教室2
	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義	教室2
	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
毎時間しっかりと考えることが必要です。積極的に学習し、メンタルヘルスを維持・向上できるように理解を深めていきましょう。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
観点			
テキスト	医学書院)精神看護の基礎、精神看護の展開、精神保健福祉		
参考書	メディックメディア)公衆衛生がみえる		
受講要件 ・備考			

科目コード N-216	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	精神看護実践論2:精神障害のある人の看護	時間数	30時間
担当教員	万葉クリニック看護師, 南和広域医療企業団認定看護師	開講時期	2年前期後期
授業概要			
主な精神症状とその治療および精神看護の基礎知識・技術・看護を学ぶ。			
到達目標			
1. 対象の主な精神症状と病理の状態とその援助方法の基礎的な知識について説明できる。 2. 精神疾患、障害をもつ対象の精神看護の看護技術を実施できる。 3. 精神に障害をもつ対象・家族を支える医療・保健・福祉のシステムを学び、対象の状態に対する看護の役割を説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	ケアの人間関係(プロセスレコード、患者－看護師関係)	講義	教室2
第2回	回復を支援する(リカバリー)	講義	教室2
第3回	地域におけるケアと支援 (地域生活を支えるシステムと社会資源)	講義	教室2
第4回	入院治療の意味	講義	教室2
第5回	入院治療の意味	講義	教室2
第6回	身体をケアする(精神科における身体のケア)	講義	教室2
第7回	身体をケアする(精神科における身体を通した看護ケアの実践)	講義	教室2
第8回	身体をケアする(精神科の治療に伴う身体のケア、身体合併症)	講義	教室2
第9回	安全をまもる看護(リスクマネジメント、行動制限)	講義	教室2
第10回	精神科で出会う人々のケアをする、安全をまもる 精神領域の疾患のある人の看護(統合失調症)	講義	教室2
第11回	精神科で出会う人々のケアをする、安全をまもる 精神領域の疾患のある人の看護(気分障害)	講義	教室2
第12回	精神科で出会う人々のケアをする、安全をまもる 精神領域の疾患のある人看護(精神症性障害)	講義	教室2
第13回	一般病棟で出会う精神障害の人のケアをする、安全をまもる 器質性精神障害のある人の看護(認知症)	講義	教室2
第14回	一般病棟で出会う精神障害の人のケアをする、安全をまもる 器質性精神障害のある人の看護(認知症)	講義	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
疾病論の既習学習内容を復習して授業に臨んでください。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)精神看護の基礎、精神看護の展開、精神保健福祉(別巻)、老年看護学 メディックメディア)公衆衛生がみえる		
受講要件 ・備考			

科目コード N-217	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	精神看護実践論3:地域支援と看護過程	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	2年後期
授業概要			
精神看護の対象となる人の症状を学ぶ。対象のセルフケア能力の再構築および社会復帰に向けた看護実践のための基礎知識・技術を学習する。			
到達目標			
1. 精神看護の看護過程の特徴と方法について理解できる。 2. 対象事例の症状アセスメントおよび治療の影響について説明できる。 3. 対象事例の看護過程の展開を実施できる。 4. 対象事例の関わり方・援助の基本的看護技術を実施できる。 5. プロセスレコードの意義・方法を学び、自己の振り返りの方法が理解できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	地域移行支援、地域生活支援の基礎	講義	教室2
第2回	地域移行支援の展開	講義	教室2
第3回	地域移行支援の展開	講義	教室2
第4回	精神看護過程	講義	教室2
第5回	統合失調症患者の看護過程の展開	講義	教室2
第6回	情報の解釈と分析	講義	教室2
第7回	関連図・健康課題の抽出・問題リスト	講義	教室2
第8回	看護計画の立案	講義	教室2
第9回	看護介入の実施	演習	教室2
第10回	気分障害患者の看護過程の展開	講義	教室2
第11回	情報の解釈と分析	講義	教室2
第12回	関連図・健康課題の抽出・問題リスト	講義	教室2
第13回	看護計画の立案	講義	教室2
第14回	看護介入の実施	演習	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
精神看護学実践論の既習内容や看護過程の展開の復習をして授業に臨んでください。 精神・地域に関する制度や法律について確認・復習しておきましょう。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト	医学書院)精神看護の基礎、精神看護の展開		
参考書	医学書院)別巻 精神保健福祉 メディックメディア)公衆衛生がみえる eナーストレーナー)精神看護過程		
受講要件・備考			

科目コード N-218	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	成人看護学概論	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年前期
授業概要			
成人の定義と、成人期にある人の特徴を学ぶ。その上で、成人の生活習慣と関連づけて健康問題を理解し、健康管理のための予防政策、健康状態に応じた成人看護の役割を学習する。			
到達目標			
1. 青年期、壮年期、向老期にある人の、身体的特徴、心理、社会的特徴、発達課題について理解する。 2. 成人を取り巻く社会環境と生活について理解し、成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策について理解できる。 3. 健康障害を持つ成人を理解し、健康状態に応じた看護援助について意欲的に考えることができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	成人と生活1	講義	教室Ⅰ
第2回	成人と生活2	講義	教室1
第3回	生活と健康1	講義	教室1
第4回	生活と健康2	講義	教室1
第5回	成人看護へのアプローチの基本1	講義	教室1
第6回	成人看護へのアプローチの基本2	講義	教室1
第7回	ヘルスプロモーションと看護と看護	講義	教室1
第8回	健康を脅かす要因と看護脅かす病因と看護	講義	教室1
第9回	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護と看護	講義	教室1
第10回	慢性病とともに生きる人を支える看護	講義	教室1
第11回	障害のある人の生活とリハビリテーション	講義	教室1
第12回	人生の最期のときを支える看護	講義	教室1
第13回	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	講義	教室1
第14回	新たな治療法、先端医療と看護	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
成人の健康状態や健康問題に対応するアプローチの基本的な考え方について学びます。概観が理解できるように毎時間復習して定着できるように学習することが必要です。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護学総論 メディックメディア)公衆衛生がみえる		
受講要件 ・備考			

科目コード N-221	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	老年看護学概論	時間数	15時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年後期
授業概要			
老化に伴う身体的・精神的・社会的側面から老年期の対象とそれを支える家族を理解し、その人らしい生活を支援する看護の役割を学ぶ。対象を取り巻く環境、とりわけ高齢者の生活を支える制度と施策、対象が多様な地域で暮らすために必要な老年看護の役割を理解する。			
到達目標			
1. ライフステージとしての老年期の定義や対象について説明できる。 2. 老年看護の理念、目標・原則・機能と役割について説明できる。 3. 家族形態の社会変化について説明できる。 4. 高齢者医療の動向・保健活動・ソーシャルサポートシステムに関する基礎知識を身につける。 5. 高齢者の人権と倫理について意欲的に考える姿勢を身につける			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	老いるということ・老いを生きること	講義	教室 I
第2回	超高齢社会と社会保障	講義	教室1
第3回	老年看護のなりたち、高齢者のヘルスアセスメント	講義	教室1
第4回	高齢者のヘルスアセスメント	講義	教室1
第5回	高齢者の生活機能を整える看護	講義	教室1
第6回	高齢者の生活機能を整える看護	講義	教室1
第7回	高齢者の生活機能を整える看護	講義	教室1
第8回	単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
超高齢者社会である現在、入院患者はほぼ高齢者である。発達課題や老化理論を理解し、社会状況や倫理的問題について考えながら、定着できるように復習していこう。加齢変化とアセスメント、高齢者に特有な援助技術を定着できるように学習していきましょう。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト	医学書院)老年看護学 メディックメディア)公衆衛生が見える		
参考書	ビジュラン)目で見る老年看護学 vol.1. 2. 3		
受講要件・備考			

科目コード N-219	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	成人看護実践論1:機能障害の看護と臨床判断	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団認定看護師・看護師	開講時期	2年前期
授業概要			
消化器系、内分泌・代謝系、腎泌尿器系に障害のある患者の看護を学習する。 系統別の医療の動向と看護を概観し、身体面・精神面・社会的特徴と看護の目的・機能、経過別、症状別、治療処置別の看護を学習する。			
到達目標			
1. 循環器、消化器系、内分泌・代謝器系疾患を持つ患者の特徴、看護に必要な情報とアセスメントの視点について説明できる。 2. おもな症状に対する看護を具体的に説明ができる。 3. 検査・治療を受ける患者の看護について説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	循環器1:循環器の看護を学ぶにあたって、症状に対する看護	講義	教室2
第2回	循環器2:検査・治療・処置を受ける患者の看護	講義	教室2
第3回	循環器3:疾患をもつ患者の看護 虚血性心疾患	講義	教室2
第4回	循環器4:疾患をもつ患者の看護 血圧異常・不整脈・弁膜症等	講義	教室2
第5回	消化器1:消化器の看護を学ぶにあたって、症状に対する看護	講義	教室2
第6回	消化器2:検査・治療・処置を受ける患者の看護	講義	教室2
第7回	消化器3:疾患をもつ患者の看護 胃・十二指腸疾患	講義	教室2
第8回	消化器4:疾患を持つ患者の看護 腸・腹膜、肝疾患・膵臓疾患	講義	教室2
第9回	感染症1:感染症とは	講義	教室2
第10回	感染症2:診断・検査と治療	講義	教室2
第11回	感染症3:疾患の理解	講義	教室2
第12回	感染症4:患者の看護	講義	教室2
第13回	症状のある患者の観察	演習	教室2
第14回	症状のある患者の観察	演習	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
事前に関連する人体の構造と機能、薬理学、疾病論の授業内容を学習して授業に取り組んでください。 各科目終了後は、各巻にある「事例による看護過程の展開」を自己学習して看護の視点を身につけてください。			
成績評価方法	配点 循環器疾患患者の看護30点 消化器疾患患者の看護30点 感染症患者の看護30点、校内実習10点 授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護3(循環器)、成人看護5(消化器) 成人看護11(アレルギー 膠原病 感染症)		
受講要件 ・備考			

科目コード N-220	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	成人看護実践論2:看護過程と臨床判断	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	2年前期・後期
授業概要			
事例を基に、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、臨地実習での看護実践能力を習得できるよう、健康状態と生活機能の視点からアセスメントし、対象者及び家族の健康課題を明らかにし、健康課題を解決するための方法について学習する。			
到達目標			
1. 事例に必要な情報がわかり、意図的な情報収集とその方法について説明できる。 2. 得られた情報と対象者にとっての意味を考え、個別的な看護計画を立案できる。 3. アセスメント同士のつながりを考えて描写し、対象者を全体的に捉えることができる。 4. 健康問題を解決するための、具体的に根拠のある看護介入を計画立案できる。 5. 看護介入によってもたらされる状態を、期待される結果として具体的に表現できる。 6. 臨地実習での看護実践に必要な知識・技能を修得し、主体的に取り組むことができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☑1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☑2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☑3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☑4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☑5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☑6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	慢性期患者の看護過程の展開	講義	教室2
第2回	事例の読み取り	講義	教室2
第3回	アセスメント	講義	教室2
第4回	関連図	講義	教室2
第5回	健康課題抽出・問題リスト立案	講義	教室2
第6回	看護計画立案	講義	教室2
第7回	周術期患者の看護過程の展開	講義	教室2
第8回	アセスメント	講義	教室2
第9回	アセスメント	講義	教室2
第10回	手術後の健康課題の抽出・問題リスト	講義	教室2
第11回	看護計画立案	講義	教室2
第12回	回復期のアセスメント	講義	教室2
第13回	看護計画立案:ストーマセルフケア	講義	教室2
第14回	看護計画立案:ストーマセルフケア	演習	基礎看護学実習室 教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	
準備学習等			
既習学習内容を復習し、授業に関連する動画教材を授業前後で視聴して授業に臨んでください。 臨地実習に向けての準備状態を整える内容です。より看護実践が出来るよう主体的に事前・事後学習に取り組みましょう。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する 配点 慢性期:45点、周術期55点		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護学総論・呼吸器・消化器・臨床外科看護総論・臨床外科看護各論 看護診断ハンドブック、メディックメディア)看護がみえる④看護過程の展開 eナーストレーナー、ビジュラン		
受講要件 ・備考			

科目コード N-222	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	老年看護実践論1:老年看護の特徴と機能障害の看護	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団看護師	開講時期	2年前期
授業概要			
高齢者看護の特性と呼吸器系、腎泌尿器系に障害のある患者の看護を学習する。 系統別の医療の動向と看護を概観し、身体面・精神面・社会的特徴と看護の目的・機能、経過別、症状別、 治療処置別の看護を学習する。			
到達目標			
1. 疾病を持つ高齢者の理解と看護実践の特性について意欲的に学ぶことができる。 2. 呼吸器疾患・腎泌尿器疾患を持つ患者の特徴、看護に必要な情報とアセスメントの視点が説明できる。 3. おもな症状に対する看護の特徴について説明できる。 4. 検査・治療を受ける患者の看護が説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	老年看護1. 健康逸脱からの回復を促す看護	講義	教室2
第2回	老年看護2. 健康逸脱からの回復を促す看護	講義	教室2
第3回	老年看護3. 健康逸脱からの回復を促す看護	講義	教室2
第4回	老年看護4. 治療を必要とする高齢者の看護:検査・薬物・手術	講義	教室2
第5回	老年看護5. エンドオブライフケア	講義	教室2
第6回	老年看護6. 生活療養の場における看護 高齢者のリスクマネジメント	講義	教室2
第7回	呼吸器1:呼吸器の看護を学ぶにあたって、 症状に対する看護	講義	教室2
第8回	呼吸器2:検査・治療・処置を受ける患者の看護	講義	教室2
第9回	呼吸器3:疾患をもつ患者の看護 肺炎・結核患者の看護	講義	教室2
第10回	呼吸器4:気管支喘息・気胸・肺がん患者の看護	講義	教室2
第11回	腎・泌尿器1:腎・泌尿器の看護を学ぶにあたって、疾患 をもつ患者の経過と看護	講義	教室2
第12回	腎・泌尿器2:症状・検査を受ける患者の看護	講義	教室2
第13回	腎・泌尿器3:内科的治療を受ける患者の看護	講義	教室2
第14回	腎・泌尿器4:外科的治療を受ける患者の看護	講義	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
事前に関連する人体構造と機能、薬理学、疾病論の授業内容を学習して授業に取り組んでください。 各科目終了後は、各巻にある「事例による看護過程の展開」を自己学習して看護の視点を身につけてください。			
成績評価方法	配点 老年看護学40点 呼吸器系疾患患者の看護・腎泌尿器系疾患患者の看護30点、 授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)老年看護学、成人看護学2・8 ビジュラン)実習・臨床で役立つ！本人視点から学ぶ高齢者看護		
受講要件 ・備考			

科目コード N-223	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	老年看護実践論2:機能障害の看護と臨床判断	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団看護師	開講時期	2年前期
授業概要			
脳・神経系、運動器系血液・感覚器系に障害のある患者の看護を学習する。 系統別の医療の動向と看護を概観し、身体面・精神面・社会的特徴と看護の目的・機能、経過別、症状別、治療 処置別の看護を学習する。			
到達目標			
1. 脳・神経、運動器系疾患等を持つ患者の経過期ごとの特徴を理解し、看護に必要な情報とアセスメントの視 点について説明することができる。 2. おもな症状に対する看護を説明することができる。 3. 検査・治療を受ける患者の看護が説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	リハビリテーション期の看護	講義	教室2
第2回	脳神経1:脳・神経の看護を学ぶにあたって、疾患をもつ患 者の経過と看護	講義	教室2
第3回	脳神経2:症状・障害をもつ患者の看護	講義	教室2
第4回	脳神経3:治療・処置を受ける患者の看護	講義	教室2
第5回	脳神経4:疾患をもつ患者の看護	講義	教室2
第6回	運動器1:運動器の看護を学ぶにあたって、疾患をもつ 患者の経過と看護	講義	教室2
第7回	運動器2:援助のための知識と技術、症状に対する看護	講義	教室2
第8回	運動器3:保存療法を受ける患者の看護、 手術療法を受ける患者の看護	講義	教室2
第9回	運動器4:疾患をもつ患者の看護	講義	教室2
第10回	感覚器1:眼疾患患者の看護	講義	教室2
第11回	感覚器2:耳鼻咽喉科疾患患者の看護	講義	教室2
第12回	感覚器3:皮膚疾患患者の看護	講義	教室2
第13回	校内実習:シナリオ8	演習	教室2
第14回	校内実習:シナリオ8	演習	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
事前に関連する解剖生理学、薬理学、疾病と治療の授業内容を学習して授業に取り組んでください。 各科目終了後は、各巻にある「事例による看護過程の展開」を自己学習して看護の視点を身につけてください。			
成績評価方法	脳神経疾患患者の看護30点 運動器疾患患者の看護30点 感覚器系疾患患者の看護30点 校内実習10点 授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護7. 10. 12. 13. 14 ビジューン)目で見える医学の基礎. Vol. 11		
受講要件 ・備考			

科目コード N-224	専門分野 生涯発達支援領域	単位数	必修 1単位
授業科目名	老年看護実践論3:看護過程と臨床判断	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	2年前期
授業概要 看護過程と臨床判断			
加齢による心身の変化と疾患の罹患により、生活を障害された高齢者に対する看護過程の展開を学習する。その人の人生を念頭におき、健康の回復を促進し、その人が望む生活ができるよう支援する看護について考える。			
到達目標			
1. 対象の現在、過去の健康・生活事象、事象間の因果関係、緊急性、今後の見通しをアセスメントする。 2. それぞれの健康課題に対して、現実的な目標の設定ができる。 3. 目標を達成するための看護計画の立案ができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	呼吸器疾患患者の看護過程:情報収集の視点・分類	講義	教室2
第2回	アセスメント 情報の分類と整理	講義	教室2
第3回	アセスメント	講義	教室2
第4回	関連図・健康課題の抽出	講義	教室2
第5回	問題リストの作成、解決目標	講義	教室2
第6回	看護計画立案	講義	教室2
第7回	実践と評価、リフレクション	講義	教室2
第8回	老年:心不全急性増悪事例、情報収集の視点・分類	講義	教室2
第9回	アセスメント	講義	教室2
第10回	関連図	講義	教室2
第11回	健康課題抽出・問題リスト	講義	教室2
第12回	看護計画	講義	教室2
第13回	実践と評価、リフレクション、看護要約	演習	成人看護学実習
第14回	校内実習シナリオ031	演習	成人看護学実習
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
既習学習内容を復習、授業に関連する動画教材を授業前後で視聴して授業に臨んでください。臨地実習に向けての準備状態を整える内容です。より看護実践が出来るよう主体的に事前・事後学習に取り組みましょう			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、レポート、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護2・3 ビジュラン)老年看護のためのアセスメント事例集vol. 2 eナーストレーナー)老年看護過程・疾患別看護過程、実習補完教材:成人・老年看護学実習(慢性期)		
受講要件			
・備考			